

令和四年

松香 Komunikado

令和四年十月度 秋季大祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj

皆様こんにちは。ただいまは、松香分苑の令和四年十月度の秋季大祭を、新しく表替えをした青畳のい草のよい香りの中で、すがすがしく齋行させていただきました。連休にもかかわらずご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださいました方々、誠に有難うございました。

また、先週の日曜日には有志の方々により、畳の乾拭きと、テーブル・イス・窓・子供部屋も含めて清掃をしていただきました。きれいになって本当に気持ちがいいです。ご奉仕くださいました皆様方有難うございます。又、外の袖垣も新しく取り換え、つくばい横の竹垣は葛迫様と二人で、材料だけ購入して内作いたしました。外回りもきれいになりました。十一月には、ご神前

十月九日発行

第二百九十五号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二・六三・二一七三

発行責任者 山本 健

板の間の補修を計画しております。このご神前を制作していただき、補修も対応していただきました、四方棟梁様は御高齢で対応できなくなられたようです。そこで、新たにこの分苑のご神前の設計図を書いてくださった、故近江棟梁様のお孫様が来て対応してくださることになりました。

「まつのよ」第九号について

先月も紹介させていただきましたが、今年の瑞生大祭において、大本教学研究誌「まつのよ」第九号が十四年ぶりに刊行されました。大本のすばらしさを強く認識させていただけの内容であります。一冊税込み七百円とお求めやすくなっております。大本のすばらしさを強く認識させていただける内容であります。分苑にてお買い求めできますので、まだ購入されておられない方はぜひ、ご購入され宣教に役立てていただきたく思います。

次に、三点お話しさせていただきます。

一、松香分苑ホームページの活用とPRのお願い

毎月お話ししておりますが、岸本様が素晴らしいホームページを作成してくださりました。ぜひ皆様、宣教活動を始め分苑内部の連絡、コミュニケーション向上にご活用くださいますようお願い致します。ホームページで今月更新して頂いた、ご神徳談のなかから一つご紹介致します。

「教主様のお写真より 金色の神様が現れる」

山本文子 抜粋です。詳しくはホームページで！
故重成カネ伯母の体験談です。

孫が十五才の時、左の脇腹に握りこぶし大の固まりが出来、痛くて苦しんでいました。〈中略〉あまり痛い痛い泣くので伯母は困り、み手代お取次を伯父の故宮崎正に頼もうと連絡しましたが留守だったので、母の松本松子にも連絡しましたが、連絡が取れず、仕方なく伯母はみ手代を持ってなかつたが、とつさに『大本祝詞』を半紙に巻いて、その孫をお取次しました。

〈中略〉お取次を受けている孫が「おばあちゃんか祝詞をあげていると高松塚古墳の写真のような頭の格好をした金色の小さな女の神様と小さい男の神様が、三代教主様のお写真と日出磨尊師様のお写真から出

てきて、男の神様が如意棒のようなもので、僕の左脇腹の固まりをたたくと、乞食の姿をした汚い男が飛び出し、出口王仁三郎聖師様のお写真がかかっている方に、その写真を取り落そうとよじ登って行くのをすぐい力でつかまえて、汚い男を軽々とひっかかえて、部屋にある火鉢に放り込み燃やしてしまった。〈中略〉おばあちゃんのお取次が終わり、左脇腹の固まりもすつかり消えて治っていました。本当に不思議な出来事だった」と孫は伯母に話したそうです。

二、具志堅幸司教授様のご講演会について

十一月十三日 月次祭の後13:30～15:00まで、分苑隣接の桜丘学園のホールで行われます。現在、塚田様にて作成していただきましたチラシが完成いたしました。松香つうしんに同封していただいていますので、お知り合いの方にお声がけをお願い致します。皆様には、受け入れ準備のご協力をお願い致します。

三、来るべき大峠に備えて

教主様は、今年の新年のご挨拶の中で、「四代教主様は、『二十一世紀は本物だけが生き残る時代に入っていくだろうと思います。時間をかけて次第に人間そのものは勿論、農業、科学、医療等、すべての分野で諸々のよこしまなものが、淘汰されて本物のみが残

つていくように思います』(平成十三年新年ごあいさつ)とお示しくございましたが、今、まさにそのような時代に近づきつつあるのではないのでしょうか。みろくの世に移行するまでにはまだまだ困難な橋を渡らなければなりません、(後略)とお示しく下さっております。御承知のように大本神諭には「人民三分になるぞよ」とはつきり、何度も示されております。みろくの世の前に立て替え立て直しがあっても断言されております。ここからは私見ですがコロナは序盤だと思えます。立て替え時には大変なことが起こるとも示されており、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、きな臭くなつてまいりました。教主様は昨年ごろから、盛んに食べ物の自給自足をお示しく下さっております。又、何人かの方も十一月くらいから、食料不足になるのではということという人もでています。神諭にも大峠のときを秋と書いてときとふりがながしっております。又、「奥山のみみじの色あせるころ」との表現もあり、十一月ごろとも取れます。いつかは断言できませんが、いつかは来ることは間違いないようです。教主様が食料の自給自足をお勧めくださったり、みずほ会も愛善酵素の販売などに力を入れたりされておりますので、食料問題が迫っているのではないのでしょうか。十月末ぐらいまでに、お米の確保をされることをお勧めします。私は、手元にも一、二か月分は

置いておりますが、年間契約も有機栽培されている農家の方としており、必要な時に必要なだけ、購入できません。一年の最後には、すべて買い取らなければなりません、四、六月ごろでしたら、減らすことも可能です。一年分の確保は必要と思えます。もし、購入の手段のない方には、ご紹介いたしますので、ご希望の方は山本まで連絡ください。

以上でございます。本日はご参拝誠に有難うございました。

Koran dankon

霊界物語全国一斉拝読会

後継者育成部長 小林 善直

十月十八日(火) 松香分苑拝読箇所 第六十四巻上
配布済みの割り振り表に沿って実施してください。詳細は「大本」十月号十ページ参照。実施報告は分所長・支部長を通じて葛迫仁子青年部長までお願いします。報告には是非LINEやメールを活用してください。信徒間の横のつながりや、災害時の危機管理体制の強化に活かされる訓練にもなります。デジタル化に若い人の助けをかりることで後継者育成にも役立ちます。よろしくお願いいたします。